

# RI とロータリー財団の学友をロータリアン 候補として勧誘することに関する報告



Membership Development Division (会員増強部)  
Rotary International



2006年3月

# 目次

	ページ
概要.....	2
はじめに.....	5
方法.....	6
質問票調査	6
統計的分析	7
事例	7
結果.....	8
現在ロータリアンとなった学友は何人いるか	8
現学友のロータリーに対する印象はどのようなものか	13
学友はロータリー入会を希望しているか	15
ロータリー・クラブにもっと多くの学友がいないのはなぜか	18
推奨事項.....	25
クラブと地区のための方策	25
成長の可能性.....	30

## 概要

国際ロータリーとロータリー財団は毎年、膨大な時間と資金を青少年プログラムに投資している。ロータリーでの経験を持ち、ロータリーの価値観を共有する**プログラム学友は、素晴らしいロータリアンになると大いに考えられる**。会員増強部は、RIとロータリー財団の学友を会員候補として勧誘することを検討するため、質問票調査、統計的分析、事例収集を含む調査プロジェクトを実施した。

## 結果

学友勧誘の現状について

- **現在ロータリアンの約 2.9 パーセントがプログラム学友である。**
- **58 パーセントのクラブが、プログラム学友を会員候補として勧誘していないことを認めている。**
- 学友を**勧誘し、実際会員の中に学友がいる**と答えたクラブはわずか **22 パーセント**である。
- 学友ロータリアンの回答者の **80 パーセント**がクラブより**勧誘を受けた**と答えているが、**20 パーセント**は地元クラブから**情報を取り寄せなければならなかった**。
- 勧誘を受けた人のうち、**68 パーセント**は自分が**プログラム学友であるために特に勧誘を受けた**と答えた一方、**32 パーセント**はクラブが自分をプログラム学友であると**知らずに勧誘した**と回答。
- 学友ロータリアンはしばしば、**プログラムを通じてロータリーに触れたことが、入会への意思に大きな影響を与えた**ことを示唆。

ロータリアンになっていないプログラム学友も、一般的に、プログラムにおいて大変**良い経験**をしている。学友の **90 パーセント**は、プログラム中やその後**にロータリー・クラブ例会へ出席したことがある**、そのほとんどが例会について**良い印象**を受けている。

**現在プログラムに参加している人の 84 パーセント、およびプログラム学友の 66 パーセントがロータリーへの入会に関心を示している**。さらに、**プログラムを終えてから時間が経過すればするほど、ロータリー・クラブ入会への関心を示す学友は少なくなっていく**(16 ページ、表 8 を参照)。

時間が経つごとに関心が薄れる傾向は、**参加者がプログラムを終了した後、ロータリーとの接触が著しく少なくなる**ためと考えられる(13 ページ、表 5)。さらに、**プログラム終了後にもロータリーと頻繁に接触を持つ学友は、ロータリーとの接触が少ない学友と比べ、ロータリー入会についてより高い割合で関心を示している**(19 ページ、表 10)。

学友がロータリー入会に**関心がない**、上位 5 つ理由は以下の通りである。

1. その他に数多くやることがある／ロータリーのために割く時間がない
2. 毎週の例会に出席できない
3. 会費が高すぎる
4. 現会員と自分の年齢がかけ離れている
5. クラブ会員が全員(またはほとんど)男性

学友がロータリーに**入会したいと希望する**、上位 5 つの理由は以下の通りである。

1. 社会奉仕
2. さまざまな人に出会う
3. 変化をもたらす／より良い世界を築く
4. 他の人も同じ体験をできるように支援する
5. ロータリーは参加に値する団体である

一方、**入会に関心を示す学友の多くはまた、入会に関して次のような懸念や制限をあげている。**

1. 膨大な時間が必要とされる
2. 会費が高い
3. 毎週の例会への出席が義務付けられている
4. 例会の時間が不便である
5. 現会員と自分の年齢がかけ離れている

その他に、**多くの学友が入会するよう声をかけられていないという単純な問題が存在するようである。**入会に関心があり、かつ現在専門職、事業主、企業幹部、管理職である学友について：

- **研究グループ交換学友の 58 パーセント**が入会の勧誘を受けていない。
- **ローターアクト学友の 67 パーセント**が入会の勧誘を受けていない。
- **奨学金学友の 82 パーセント**が入会の勧誘を受けていない。

**より多くの学友がロータリーに入会していないのはなぜか**と尋ねたところ、多くの**ロータリアン**から寄せられた回答は以下の通りである。

- 多くの**クラブ**が RI やロータリー財団のプログラムに**参加していない**。
- 多くのクラブは、クラブとプログラム参加者との間に**関係を築いていない**。
- 多くの学友はプログラム終了時にロータリー・クラブ入会の資格をまだ満たしていないため、ロータリアンはそうした**学友を将来のロータリアンとして見るのが難しい**。
- 多くのクラブや地区は**記録管理が万全でなく**、学友に関して体制が整っていない。
- 多くのクラブや地区にとって、**学友の最新の連絡先を維持するのが難しい**。
- 多くの地域に**ローターアクト・クラブが存在せず**、このためロータリーに関与した若い学友を入会の資格を満たすまで維持することが困難である。
- 多くのクラブは**学友に入会を勧めなかったり**、一度断られた場合は再び勧誘を行うことがない。
- 多くの学友は、ロータリアンと自分の間に**大きな年齢差**があるために距離を感じる。

## 推奨事項

**学友を会員候補としてさらに活用するために、クラブや地区が導入できる多くの方策として、以下が挙げられる。**

- 現在のプログラム参加者と**密接な関係を築く**。
- 学友のロータリー活動への参加を維持し、ロータリアンへと移行するための**行動計画を作成する**。
- **学友を推進し**、他のロータリアンがその重要性を理解できるようにする。
- **学友に入会を勧める**。最初の勧誘で断られても、勧誘を続ける。

- **それぞれのニーズに合うクラブ探し**において学友を支援する。
- **新しいクラブを結成**するために学友を集める。
- 会員となる資格を満たすまで、若い学友とも**連絡を取り続ける**。
- 学友に**他のプログラムに参加**してもらう。
- 学友に**クラブや地区の活動に参加**してもらう。

## 成長の可能性

2004-05年度、**ロータリーのプログラムは100,000名を超える学友を輩出している**。その多くはプログラムにおいて素晴らしい体験をし、ロータリーに大きな関心を寄せている。彼らはロータリー家族の一員であり、ロータリーのあらゆる活動に大きく関与した。既にロータリーに入会する資格を持つ学友もいれば、まだその資格がないものの、これから候補になりうる学友も存在する。

クラブや地区が、こうした学友を**将来の地域社会のリーダー**であると考えれば、彼らを**将来のロータリーのリーダー**として見るができるようになり、学友との関係維持に対する関心が増し、最終的には学友を会員候補として勧誘するに至るであろう。

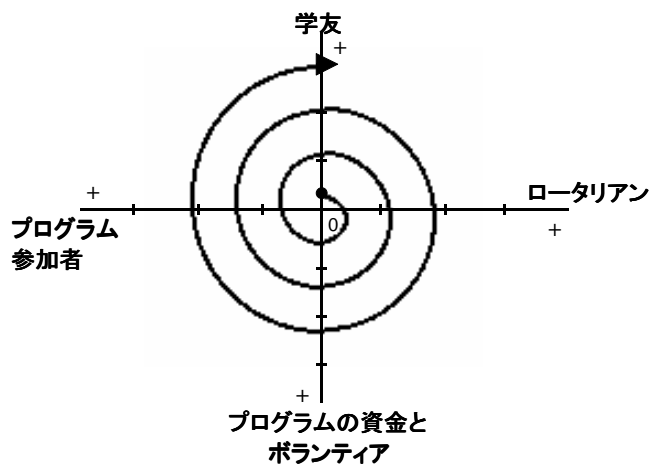
# RI とロータリー財団の学友をロータリアン 候補として勧誘することに関する報告

国際ロータリーとロータリー財団は毎年、膨大な時間と資金をプログラムに投資している。2004-05年度、ロータリー・クラブや地区は、RYLA を通じて 20,000 人以上の青少年に指導力要請の研修を提供し、インターアクトとローターアクト・クラブでは奉仕に関心を寄せる約 410,000 人の青少年を支援し、青少年交換、国際親善奨学金、研究グループ交換においては 10,000 人以上の学生や若い専門職務従事者に海外で学ぶ機会を提供した。

これらのプログラムは優秀で意欲ある若者たちを惹きつけるだけでなく、指導力、奉仕、国際理解に献身する個人を形成することにもつながる。こうしたプログラムに参加した人々はしばしば、地域社会へ貢献するようになり、ロータリーで学んだ価値観を世界中で分かち合うようになる。

ロータリーの価値観を共有するプログラム学友は、素晴らしいロータリアンになると大いに考えられる。彼らは他の平均的な会員候補者と比べて既にロータリーについて良く知っており、ロータリーのプログラムに参加したことからも、彼らがロータリーの綱領に関心を持っていることがわかる。学友のこれまでのロータリーでの体験を十分に活用し、会員としてロータリーに関わり続けてもらうことで投資の効果を得るべきではないだろうか。

さらに効果的に学友を勧誘することによって、より多くのロータリアンを生み出すことができると考えられる。ロータリアンの数が増えれば増えるほど、RI やロータリー財団のプログラムを支える人材と資金も増加する。より多くのプログラム資金と支援が得られることは、より多くの若者たちがプログラムに参加できることを意味する。より多くの若者たちがプログラムに参加すれば、さらなる学友が輩出される。さらに多くの学友を勧誘すれば、ロータリアンが一層増える、という具合に発展する。下のらせん形は、学友が定期的にロータリアンとして勧誘を受けた場合に、すべての分野においてロータリーにもたらされる成長の可能性を概念的に表したものである。



## 方法

RIとロータリー財団の学友を会員候補として検討するため、会員増強部は、ロータリー・クラブが現在、RIとロータリー財団プログラムの元参加者を会員候補者として活用しているか否かを調査するプロジェクトを実施した。その目的は、ロータリー・クラブ入会に対する学友の関心、クラブにおける現在の学友数、クラブでの学友入会率を高める方策、そしてクラブが定期的に学友を会員候補者として勧誘した場合の会員増強の可能性を見極めることである。こうしたプロジェクトの目的に合わせて、RIとロータリー財団のプログラムの中から、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLA、研究グループ交換、国際親善奨学金が対象として取り上げられた。

情報は、主に3つの手段により収集された。

- 質問票による調査
- RIとロータリー財団の統計分析
- 事例収集

## 質問票による調査

会員増強部は、本プロジェクトのために4種類の質問票による調査を実施した。

「プログラム参加および利用に関する調査」(補遺資料1)は、世界中から無作為に選ばれた5297のロータリー・クラブへ送付され、そのうち回答があったのは1540クラブ、29パーセントの回答率という結果となった。調査回答は、80カ国、485地区を代表している。この調査では、RIおよびロータリー財団のさまざまなプログラムへの現在のクラブの参加状況、クラブがプログラム学友を会員候補として勧誘しているかどうか、そして現クラブ会員のうちプログラム学友は何名かといった情報を求めた。

「プログラム参加および利用に関する調査」に回答したクラブには、ロータリー・クラブ入会前に少なくとも1つのRIプログラムまたはロータリー財団プログラムに参加した経験があり、調査表記入に協力できる現会員を挙げてもらった。これらの学友ロータリアンに、「現ロータリアンへのアンケート調査」(補遺資料2)を送付し、42カ国より、301の調査回答が得られた。この調査では、プログラムについての認識、なぜロータリアンになったのか、どのようにしてロータリー・クラブと連絡をとるようになったのか、そしてロータリアンとしての体験は期待に合うものであったかといった情報を求めた。

会員の中に少なくとも3名の学友がいると報告したクラブから、20クラブを無作為に選び、Eメールで連絡を試みた。これらのクラブには、プログラム学友を勧誘するための効果的な方策について説明してもらった。

「元プログラム参加者調査書」(補遺資料3)は、現在ロータリアンではないプログラム学友へ送付された。調査書は、元研究グループ交換参加者と元国際親善奨学金参加者について、ロータリー財団のデータベースから無作為に選ばれた人々へ配布した。元インターアクター、元ローターアクター、元ライリアン、元青少年交換学生については、RIはこれらの学友の連絡先を管理していないため、地区委員長から調査書が配布された。64カ国より、957の調査回答が得られた。この調査では、学友のプログラムについての認識、ロータリー・クラブについての認識や体験、現在または将来にロータリー・クラブへ入会することへの関心について情報を求めた。

「現プログラム参加者調査書」(補遺資料 4)は RI およびロータリー財団の現プログラム参加者を対象とした。調査書は、現在の研究グループ交換参加者と国際親善奨学金参加者について、ロータリー財団のデータベースから無作為に選ばれた人々へ配布された。現在のインターアクター、ロータリーアクター、ライタリアン、青少年交換学生については、RI はこれらの参加者の連絡先を管理していないため、地区委員長から調査書が配布された。この配布は、ロータリーアクト会議および青少年交換大会にて行われた。73 カ国より、1339 の調査回答が得られた。この調査では、現参加者のプログラムについての認識、ロータリー・クラブについての認識や体験、将来ロータリー・クラブへ入会することへの関心について情報を求めた。

今回の研究のために特別に実施された上記 4 つの調査に加え、「2004-05 年度地区会員増強委員長アンケート調査」(補遺資料 5)の一部がプログラム学友勧誘活動のために充てられた。205 名の地区会員増強委員長が調査に回答し、199 名が学友に関する項目に回答した。この調査では、プログラム学友に関して、地区が追跡、連絡、勧誘を行っているか否かについて情報を求めた。

## 統計的分析

会員増強部は、プログラム参加に関して、RI データベースのさまざまな情報を分析し、統計を算出した。職員が情報を収集したのは、研究グループ交換と国際親善奨学生の前参加者に関する情報を管理するロータリー財団学友データベース、ロータリーアクトおよびインターアクト・クラブに関する情報を管理する RI のピープル・データベース、そして地区 RYLA 委員長および青少年交換委員長対象の年次アンケート調査からである。会員増強部はこうしたあらゆる情報源からのデータを用いて、各プログラムの年間参加者数、毎年輩出される学友数、そしてすべてのプログラムにおける現在のロータリー・クラブの参加状況を調査した。

会員増強部はまた、近年 RI に提出されたオンラインの会員候補者書式を分析し、この書式によってロータリー・クラブと接触することができたプログラム学友の数も調査した。これは、資格を有するライタリアン以外の人々が RI ウェブサイト上で「会員候補者書式」に入力することで、ロータリーへの入会希望を知らせることができるものである。時折、プログラム学友がこの書式に入力し、クラブに入会してロータリーと再びつながりを持ちたいと希望することがある。

## 事例

会員増強部職員は、現在のロータリーにおけるプログラム参加者の状況に関する情報を集め、学友からライタリアンへの移行を助ける方策を見出すため、2004-05 年度を通じて、プログラムの現参加者および元参加者の行事やワークショップをいくつか観察した。その行事やワークショップには以下が含まれる。

- 2004 年セントラル・ステイツ青少年交換プログラム夏季大会
- 米国、カナダ、カリブ海 (USCC) 2004 年ロータリーアクト会議
- 2005 年 RRIMC 研修セミナーにおける学友オープン・フォーラム
- 2005 年シカゴ大会における学友関係の改善ワークショップ
- 2005 年財団学友諮問グループ研修会議

## 結果

調査、統計分析、各事例の結果は以下に概説された通りである。これらの情報は、以下の質問に対する答えとなる可能性がある。

- 現在ロータリアンとなった学友は何人いるか
- 現在の学友のロータリーに対する印象はどのようなものか
- 学友はロータリー入会を希望しているか
- ロータリー・クラブにもっと多くの学友がいないのはなぜか

### 現在ロータリアンとなった学友は何人いるか

「プログラム参加および利用に関する調査」では、RIとロータリー財団の各プログラムの元参加者で、現在は会員となっている人の数を記入するようクラブに求めた。以下の表は、その回答を表している。**クラブあたりの学友数の全体平均は1.08人であるが、プログラム別の学友平均数はクラブあたり1名を大きく下回ることに留意してほしい。**

表 1

	クラブあたりの 平均学友数
ローターアクト	0.36
GSE	0.20
青少年交換	0.17
RYLA	0.15
インターアクト	0.15
奨学金	0.05
全体平均	1.08

プログラムごとの学友数の差は、プログラム参加者数の根本的な大小を反映していると考えられる。2004-05年度の各プログラムにおける参加者の概数は下表の通りである。この表から、あるプログラムの参加者は他のプログラムよりも通常多いか、または少ないことを考慮し、比較基準を得ることができる。

表 2

	2004-05年度の 参加者
インターアクト	230,000
ローターアクト	180,000
RYLA	20,000
青少年交換	7,000
GSE	2,100
奨学金	1,000

ローターアクトは通常、他のプログラムと比べ、より多くの参加者が集まり、元ローターアクトのロータリアンも必然的に多くいると考えられる。しかし、研究グループ交換は通常他より少ない参加者数でありながら、ほとんどのプログラムより多くのロータリアンを輩出している。インターアクトの参加者は最も多いものの、インターアクトからロータリアンとなる数はほぼ最低である。

またこの調査書への回答の中で、**58 パーセントのクラブが、プログラム学友を会員として勧誘していない**と認めている。42 パーセントのクラブは学友を勧誘していると答えているが、その半数近くは学友の会員がいない状態である。これは、学友を**勧誘し、実際会員の中に学友がいる**と答えたクラブが**22 パーセントに過ぎない**ことを意味している。従って、クラブあたりの全体平均学友数は1人であるが、**大多数のクラブには学友が1人もおらず**、学友のいるクラブには数多くの学友が存在しているのが現状である。

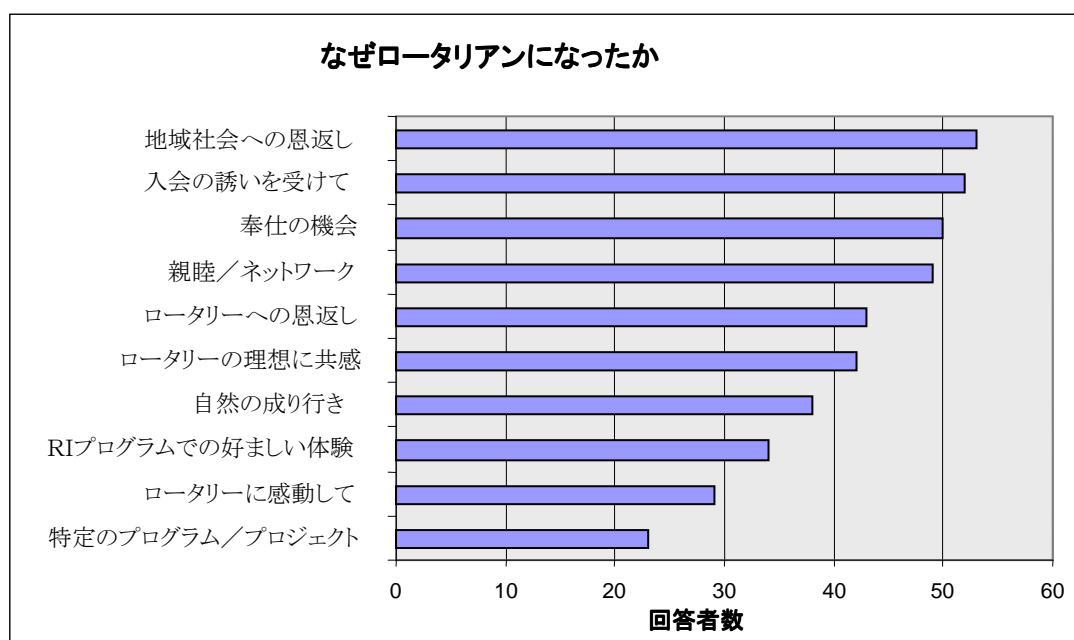
これらの数字を基に、**現ロータリアンの約2.9パーセントが学友である**と推定した。残念ながら、次の2つの要因から、全学友のうち何パーセントがロータリアンになったのかを算出することはできなかった。

1. すべてのインターアクト、ローターアクト、ライラリアン、また青少年交換学生の包括的なデータベースが存在しないこと。クラブと地区は各プログラムの推定参加者数を RI へ報告しているが、参加者の氏名は提供されないため、その後ロータリアンとなったかどうかを追跡調査することができない。
2. 元研究グループ交換参加者と元国際親善奨学生の名を記録するロータリー財団のデータベースはロータリアンの記録を含むデータベースから独立したものである。RI は、元研究グループ交換参加者および元奨学生がロータリアンになったことを RI 世界本部に連絡してくるのを頼りにしているが、実際に報告されるケースは少ない。

## なぜロータリアンになったか。

「現ロータリアンへのアンケート調査」では、現在ロータリアンとなったプログラム学友に、ロータリアンとなった理由を尋ねた。上位 10 までの理由は下の図表に示されている。

図表 A



数多くの回答の中で繰り返し見られる課題は、**プログラムを通じてのロータリーとの触れ合いが入会への意思に大きな影響を与えている**ことである。以下にその具体例をいくつか紹介する。

- 「交換学生として活動するロータリーを目にし、また個人的にもロータリーからの恩恵を受け、これほど多くのものを与えてもらったので、自分もロータリーに恩返しがしたいと思いました」  
- 49歳男性(オーストラリア)、青少年交換
- 「研究グループ交換の後、私はロータリーの使命に感銘を受け、私自身もその一員でありたいと望むようになりました」  
- 42歳女性(米国)、研究グループ交換
- 「私は、訪問したクラブの活動に心を動かされました。私もロータリーが提供する枠組みのなかで善い行いをしたいと思いました。研究グループ交換に参加する中でロータリーの理想に触れることができたのです」  
- 34歳男性(スウェーデン)、研究グループ交換
- 「インターアクトのメンバーとして、私はロータリーが地域社会に及ぼす影響を目にしました。それは主に社会奉仕の奉仕部門を通してのものでした。そして私は高校を卒業したときに決めたのです。いつか必要なだけの収入を得られるようになったら、私もロータリアンになるのだと」  
- 35歳男性(米国)、インターアクトおよび RYLA
- 「ローターアクトとして充実した体験をした結果、これからも慈善活動と友好づくりを続けていきたいと思ったからです」  
- 36歳女性(スコットランド)、ローターアクト

## ロータリー・クラブにどのように入会したか

学友のクラブ入会までの経緯をさらに詳しく追究するため、現在ロータリアンとなったプログラム学友にクラブ入会までのプロセスを尋ねた。次の表は、調査回答者がクラブへ入会した年の年齢と、プログラムを終了してからロータリー・クラブへ入会するまでの年数を示している。

表 3

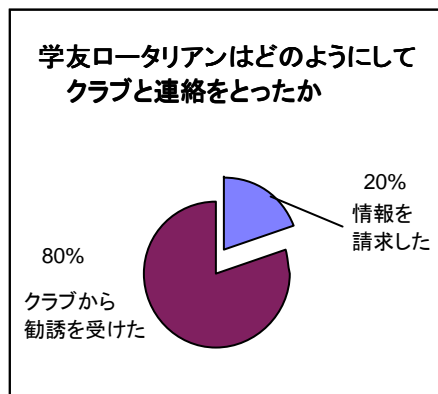
	ロータリー・クラブ 入会時の 平均年齢
RYLA	28
ローターアクト	34
青少年交換	34
インターアクト	37
GSE	37
奨学金	38
<b>全体平均</b>	<b>36</b>

表 4

	プログラム終了から クラブ入会までの 年数
GSE	4.0
ローターアクト	6.9
RYLA	7.2
奨学金	13.2
青少年交換	16.8
インターアクト	20.2
<b>全体平均</b>	<b>8.1</b>

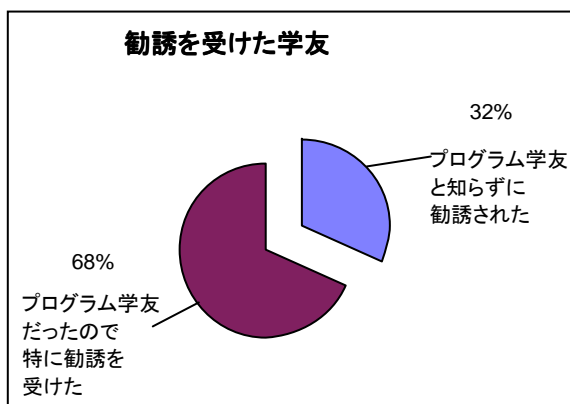
現在所属するクラブとどのようにして連絡を取ったのかという質問に対して、**80 パーセント**の回答者がクラブから**勧誘を受けた**と答え、**20 パーセント**は地元のクラブに連絡して**情報を取り寄せ**なければならなかったと答えている。

図表 B

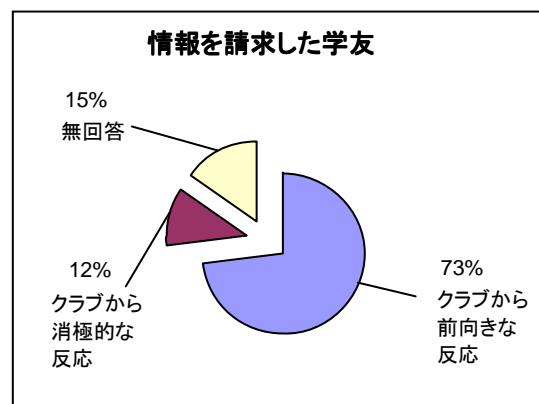


勧誘を受けた人のうち、**68 パーセント**は自分がプログラム学友であるために特に勧誘を受けたと答え、**32 パーセント**はクラブが自分をプログラム学友であると**知らずに**勧誘したと回答している(図表 C を参照)。クラブから**自分で情報を取り寄せた回答者**のうち、**73 パーセント**がクラブは問合せに対して**前向きな**対応だったと答え、**12 パーセント**はクラブが**消極的な**対応を示したとし、**15 パーセント**は無回答であった(図表 D を参照)。

図表 C



図表 D



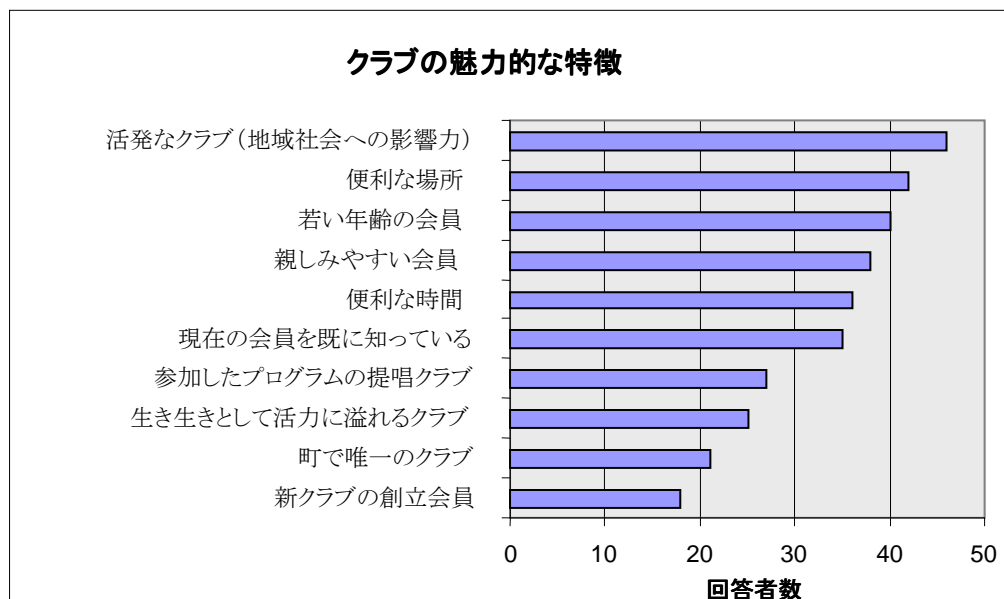
以下は、自分でクラブに情報を問い合わせた学友からの前向きな例と消極的な例である。

- 「ほとんどのクラブは大変協力的かつ積極的で、私のニーズにふさわしいクラブを選ぶのを助けてくれました」
  - 43歳女性(オーストラリア)、青少年交換

- 「私は当時 22 歳でしたが、やる気のある活動家としてすぐに受け入れられました」  
－ 48 歳男性(オーストラリア)、インターアクト
- 「前向きな対応でしたが、彼らは入会の希望に対してどのように対応すべきかわからない様子でした」  
－ 32 歳男性(ニュージーランド)、ローターアクト
- 「私は 12 年間ローターアクトで活動し、クラブ会長 4 期と地区委員長 2 期を含め長年にわたって役職を務めた後で、いわば強引にロータリー・クラブへ入会させてもらったようなものです」  
－ 男性(英国)、ローターアクト
- 「大変消極的で否定的でした。私たちは入会を希望する候補者 40 名の集まりで、主に元ローターアクターとして既に 2 年間もロータリー生活を経験していました。最終的には、私たちが新クラブを結成するよう支援してくれるクラブを見つけることができました」  
－ 37 歳男性(ドイツ)、RYLA およびローターアクト

回答者がなぜ特定のクラブに入会したのかその理由をさらに詳しく探るため、他のクラブではなく、現在所属するクラブに惹かれた理由を質問した。上位 10 までの理由が下の表に示されている。**学友にとって、参加したプログラムにおいて自分を派遣したクラブ(提唱したクラブ)よりも活動的なクラブの方がより魅力的である**という結果は興味深く、留意すべき点である。

図表 E



## 現在までのロータリー・クラブにおける経験は、期待に合うものだったか

ロータリーにおける経験は期待に合うものであったかを尋ねた際、**94 パーセントの回答者が「はい」と答えている。期待に合うものだった**と答えた回答者の上位 6 つの理由は以下の通りである。

1. クラブが良い親睦関係を保っている。
2. 数多くの奉仕の機会がある。
3. 地域社会への支援を楽しむことができる。
4. クラブが良いプログラム／プロジェクトを行っている。
5. ロータリーの国際性を楽しむことができる。
6. 個人的な成長を経験することができる。

期待に合うものでは**なかった**と答えた回答者の上位 5 つの理由は以下の通りである。

1. クラブが十分な活動／プロジェクトを行っていない。
2. 会員として取られる時間が多すぎる。
3. クラブ会員の中の年齢差。
4. クラブ会員の参加が乏しい。
5. クラブの管理運営が不十分。

この調査に回答したプログラム学友のロータリアンは全体的に活動的かつ献身的なロータリアンのようである。彼らは平均 16 年間クラブに在籍している。ロータリー・クラブに入会して以来、**81 パーセントがクラブの指導的な任務を担った経験があり、23 パーセントは地区での指導的役割を経験している。**

## 現在の学友のロータリーに対する印象はどのようなものか

現在ロータリアンではない学友に、プログラムでの経験について 1 から 6 まで (1 が最高、6 が最低) の評価をしてもらった。**学友は、各プログラムにおいて概して大変肯定的な経験をしており、全体の平均は 1.5 とほぼ最高の評価となった。**

ロータリアンではない学友にはまた、プログラム中とプログラム終了後のロータリー・クラブとの接触について尋ねた。それぞれのプログラムで最も多い回答は、下表の通りである。ロータリー・クラブとプログラム参加者との接触は、プログラムが終了すると、劇的に減少することがわかる。

表 5

	ロータリーとの連絡	
	プログラム 期間中	プログラム 終了後
<b>GSE</b>	毎日	毎年
<b>RYLA</b>	毎日	連絡なし
<b>インターアクト</b>	毎週	連絡なし
<b>奨学金</b>	毎月	毎年
<b>青少年交換</b>	毎月	毎年
<b>ローターアクト</b>	毎月	連絡なし

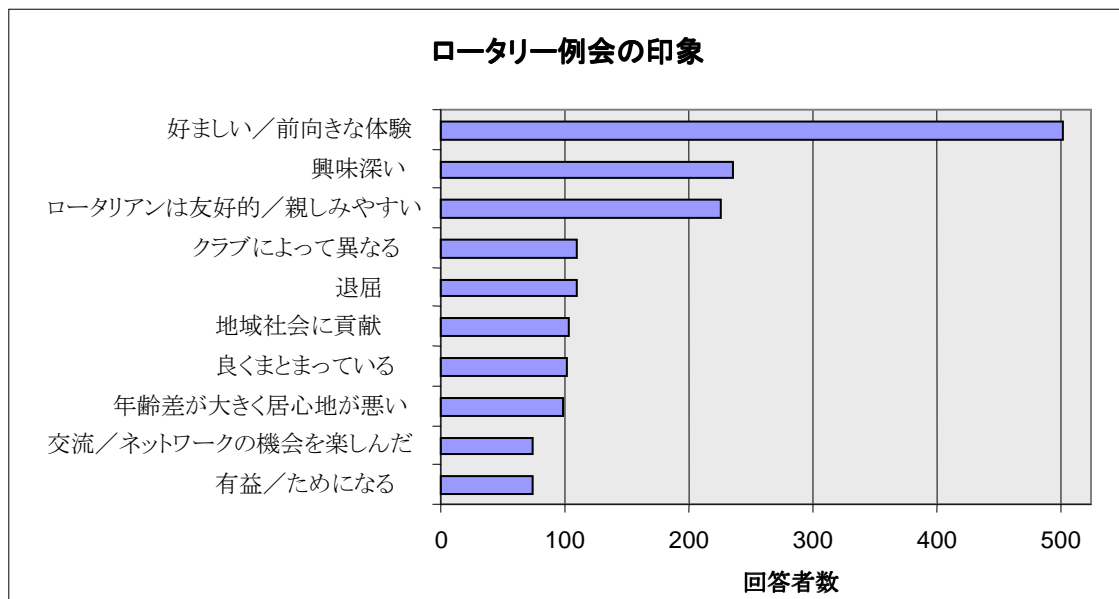
現在のプログラム参加者およびロータリアンではない学友に、**ロータリー・クラブ例会へ出席したことがあるか**を尋ねた。プログラム別に、「はい」と答えた回答者の割合が下表に示されている。

表 6

	ロータリー・クラブ 例会へ出席した ことのある割合
GSE	98%
奨学金	96%
青少年交換	94%
ローターアクト	83%
インターアクト	72%
RYLA	64%

「はい」と回答した人に、出席した例会についての感想を尋ねた。**69 パーセント**は例会についておおむね**肯定的**な印象を持ち、**18 パーセント**が**否定的**な印象、**13 パーセント**は**肯定的とも否定的とも示さなかった**。ロータリー例会に関する意見について最も多い上位 10 つの回答は次の表の通りである。

図表 F



ロータリアンではない学友および現在のプログラム参加者が、**ロータリー会員についてどの程度知っているか**を調査するため、下に挙げるロータリーの 5 つの要素について尋ねた。

- ロータリーの綱領が人道的奉仕、職業の道徳的水準、国際理解と親善の推進を強調している、と知っていたのは 98 パーセントだった。
- ロータリアンは、専門職、管理職、または事業主であるか、あるいはこれらの職を退職した者のいずれかでなければならない、と知っていたのは 64 パーセントだった。

- ロータリアンは毎週クラブ例会に出席する義務がある、と知っていたのは 87 パーセントだった。
- ロータリー・クラブの会員の責務の一つにロータリー財団を支援することがある、と知っていたのは 86 パーセントだった。
- 毎年ロータリアンは複数の社会奉仕プロジェクトに参加する、と知っていたのは 95 パーセントだった。

## 会議・大会の評価

プログラム参加者とロータリー・クラブとの関係についてさらに詳しく調べるため、会員増強部職員が会議や大会で出会った現ローターアクトおよび青少年交換学生に、ロータリー・クラブとの関わりについてさまざまな質問をした。

現ローターアクトのほとんどは、**ロータリアンを大変好意的にとらえているものの**、現在のロータリー・クラブとの関係について不満を感じるという声が多く聞かれた。彼らの声には次のようなものが挙げられる。

- ローターアクト・クラブの活動に対して、ロータリー・クラブや地区に関心を持ってもらうのが難しい。
- 提唱クラブは、ローターアクト・クラブに対する役割を理解していないようである。
- ロータリアンがローターアクト例会に来てくれることはめったにない。
- 数多くの提唱クラブは、人手が足りないときだけプロジェクトに参加するよう声をかけてくる。

一般的な意見としては、ローターアクトはロータリアンを尊敬しているものの、ロータリー・クラブとの**さらなる関わり合いやより協力的な関係**が望ましいというものであった。

青少年交換参加者の大半は、ロータリアンおよびロータリー・クラブを**大変肯定的に見ている**。彼らは少なくとも 2 つのクラブ（派遣側および受入側）と接しているため、クラブごとの違いを感じる参加者が多くいた。例えば、派遣クラブはオリエンテーションの過程で大変積極的であったが、受入れクラブは最小限の関与に留まっていた、またはその逆のケースなどがある。こうした学生の体験や印象は各クラブとの関わりや雰囲気大きく左右されるが、学生は全体的に大変好意的な印象を抱いており、素晴らしい体験を与えてくれたロータリーに感謝の意を表している。

## 学友はロータリー入会を希望しているか

現在のプログラム参加者およびロータリアンではない学友に、現在または将来、ロータリー・クラブへ入会することに関心があるかを尋ねた。プログラム別に、「はい」と答えた回答者の割合が次の表に示されている。

表 7

	ロータリー入会を希望する <b>現在のプログラム参加者</b> の割合	ロータリー入会を希望する <b>ロータリアンではない学友</b> の割合
ローターアクト	93%	59%
奨学金	84%	56%
GSE	80%	54%
RYLA	90%	75%
青少年交換	83%	71%
インターアクト	86%	85%

現在のプログラム参加者およびプログラム学友の両者とも、その多くがロータリー・クラブ入会に関心を示している。しかし、**元参加者のロータリー入会への関心は、現在の参加者と比べて全体的に低い割合であり**、プログラムを終えて時間が経過すればするほど、ロータリーとの接触が最小限または全くないために**入会の意欲が失われている**ことを示している。その様子は表 5(13 ページ)に表されている。

この現象は、プログラムを終了してからの年数とロータリー・クラブ入会に関心を持つ学友の割合の関係を見ることでさらに明らかになる。次の表は**プログラムを終了して年数が経過するほど、ロータリー・クラブ入会に関心を持つ学友が減っていく**様子を示している。

表 8

学友がプログラムを終了してからの年数	ロータリー入会を希望するロータリアンでない学友の割合
1～3 年	72%
4～6 年	68%
7～9 年	62%
10～14 年	58%
15～19 年	48%
20 年以上	30%

こうした傾向にも関わらず、**数多くの学友がロータリー・クラブ入会に関心を持っている**ことが明らかである。数多くの学友が RI ウェブサイト上で「会員候補者書式」を提出している事実も、その関心の高さを裏付けている。「会員候補者書式」はロータリアンではない資格を備えた人々がロータリー入会への関心をクラブに伝えるために入力する書式である。この書式は RI 世界本部へ提出され、審査を受けた後、その人物が希望する地域の地区指導者へと転送される。地区ガバナーまたは会員増強委員長が、その人物を会員となるにふさわしいと判断した場合、適当なクラブへその書式を転送することができる。そしてクラブは、関心を持っているその本人に連絡をするか否かを選択することができる。入会を求めるかどうかはすべてクラブの裁量に任されている。

現在この書式には学友であるかどうかを尋ねる項目がないが、「How did you hear about Rotary International (国際ロータリーについてどのようにして知りましたか)」の項目で多くの人が自分が学友

であることを示している。2003-04年度および2004-05年度に提出された書式を調べたところ、**少なくとも300通の会員候補者書式がプログラム学友から提出されたものであった**。この書式を通じて寄せられる学友からの問合せの多くは、元ローターアクターおよび元青少年交換学生からのものである。

表 9

	2003-05年度に 学友から提出され た書式	学友から提出され た書式の割合
ローターアクト	95	32%
青少年交換	81	27%
インターアクト	55	18%
奨学金	53	18%
GSE	9	3%
RYLA	7	2%
<b>合計</b>	<b>300</b>	

以下は、会員候補者書式に記されたコメントの数例である。

- 「私はロータリー・クラブから派遣され、1987-88年度にブラジルのヘゼンデの高校で1年間交換留学をしました。それ以来、入会に関心を持っています。この団体でもう一度活動できることをとても期待しています」  
－ 元青少年交換学生
- 「私は大学時代にローターアクト・クラブでリーダーを務めた経験が忘れられません。他の人々のために奉仕することが本当に楽しく、ロータリーの基本的な理念に強く共感しています。世界に変化をもたらすため私たちは最善をつくす必要があると思います」  
－ 元ローターアクター
- 「1997年に参加したRYLAキャンプで配布されたポケットサイズの「四つのテスト」を、私はいまだに携帯しています。(地域社会で)奉仕し、指導力を発揮していきたいと強く感じているからです」  
－ 元ライラリアン
- 「私はロータリーの地域社会と世界での奉仕プログラムに貢献する方法を何年も探し続けてきました。ポリオ撲滅プログラムは、壮大な目標を成し遂げるため、ロータリーが世界中の会員を動員することができた、目を見張るべき成功例と言えるでしょう」  
－ 元国際親善奨学生
- 「ロータリアン一家に生まれ、私も今では長年ロータリアン家族の一員となっています。インターアクト・クラブから始め、ローターアクト・クラブを経験し、私の年齢を考えるとロータリー・クラブの会員となるべきときがきたと感じています」  
－ 元インターアクター、元ローターアクター

- 「ロータリーの交換プログラムでオランダを訪れた経験は、私の人生のさまざまな面に大きく影響を与えています。外国の文化について多くの見識を得ることができただけでなく、ロータリーのような国際的な団体がいかに親善とさらなる友好を築くことができるかということに対して感謝の気持ちを抱くようになりました。これから地元のロータリー・クラブの活動を通じて地域社会に貢献していくこと、そして国際ロータリーのより大きなビジョンと目標を考えると、期待が膨らみます」
  - 元青少年交換学生

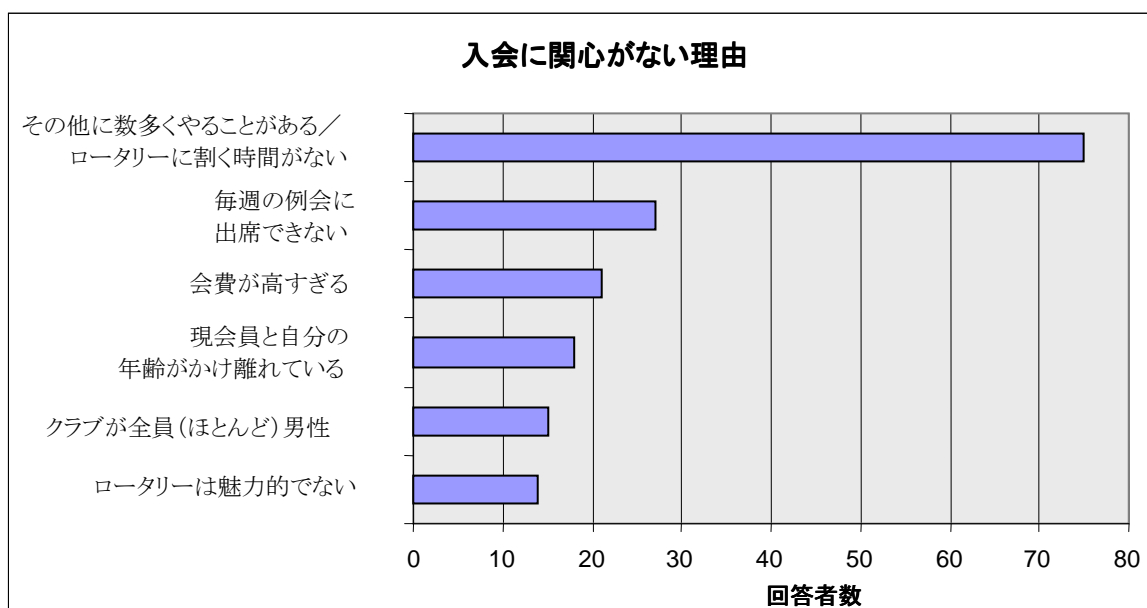
## ロータリー・クラブにもっと多くの学友がいないのはなぜか

全体的に、現在のプログラム参加者の 84 パーセント、プログラム学友の 66 パーセントがロータリーへの入会に関心を示している。それでは、ロータリー・クラブにより多くの学友がいないのはなぜだろうか。この問いに答えるため、学友がなぜロータリー入会に関心を持っているのか、または持っていないのかに関する情報を、現在のプログラム参加者とロータリアンではない学友の両者に尋ねた。その回答は以下にまとめられた通りである。

### 入会に関心がない学友

ロータリアンではない学友の 34 パーセントがロータリー・クラブ入会に関心がないと答えている。これらの学友にさらに、なぜ入会に関心がないのかを尋ねた。上位 6 つの理由が下の表に示されている。

図表 G



「その他に数多くやることがある／ロータリーのために割く時間がない」がロータリー入会に興味がない理由として最も際立って多い。回答者の多くは会員となる心構えができていない、または会員に求められる時間を割くことができないとコメントしている。2番目に多く挙げられた理由は「毎週の例会に出席できない」である。これを理由として挙げた回答者は特に、旅行や不規則な勤務時間などから毎週の例会には出席できないと答えている。興味深い点は、5番目に多い「クラブ会員が全員（またはほとんど）男性」という理由が女性と同様に男性からも寄せられていることである。

その他の回答者はロータリーに対する**関心を失った**と答えている。おそらくこれは、表 5 (13 ページ) に見られる通り、参加者がプログラムを終了した後にロータリーとの連絡が激減するためと思われる。下の表は、プログラム終了後にロータリーとの連絡が最小限あるいは全くなかった学友と比べて、**プログラム後にロータリーと頻繁に連絡をとっていた学友がどれほどロータリー入会に関心を持っているか**を示している。

表 10

プログラム終了後の連絡	ロータリー入会希望者の割合
毎日	92%
毎週	79%
毎月	78%
四半期毎	67%
毎年	64%
連絡なし	60%

その他に、興味がない理由として回答者から多く見られた回答は以下の通りである。

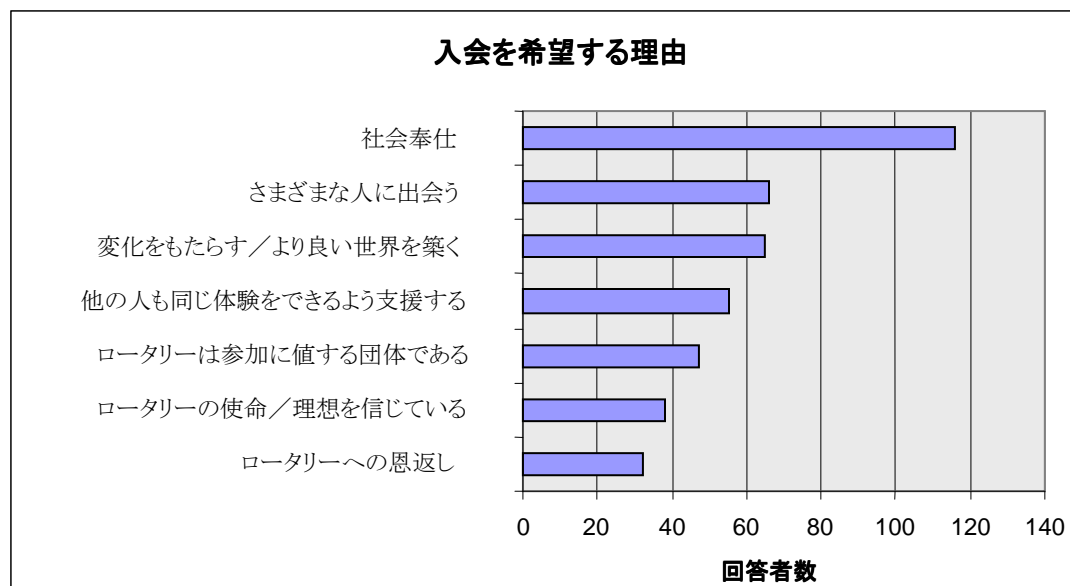
- ロータリー／会員としての責務に関する知識の欠如
- クラブが排他的／エリート主義すぎる
- 既に他の市民クラブで活動をしている
- クラブが儀式的／形式的すぎる
- 地元のクラブが活発にプロジェクトを行っていない
- クラブは青少年との関わりがない

こうした意見にもかかわらず、入会に関心がない回答者の多くは、**ロータリーの活動に参加することに現在も関心を示しており**、さらに現時点で入会の準備ができていない人々も、**将来入会することに関心を持っている可能性がある**。

## 入会に関心を持つ学友

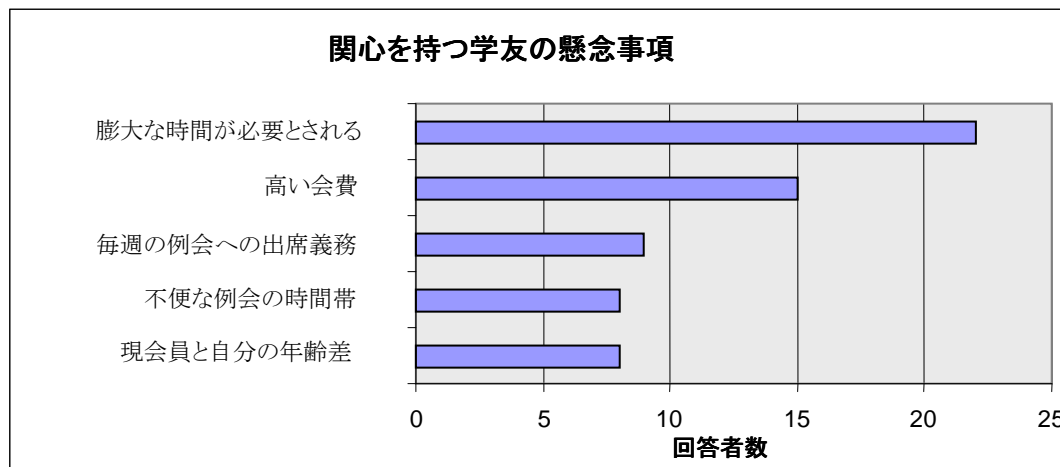
ロータリアンではない学友の **66 パーセントがロータリー・クラブ入会に関心がある**と答えている。これらの学友にさらに、**なぜ**入会に関心があるのかを尋ねた。上位 7 つの理由が下の表に示されている。

図表 H



一方、入会に関心を示す学友の多くはまた、入会に関して次のような懸念や制限をあげている。ロータリー入会に関心のある学友が上げた上位 5 つの懸念は次の表の通りである。

図表 I



ご覧いただける通り、ロータリー入会に関心を示す学友の懸念事項の多くは、入会に関心のない学友が言及した点(18 ページ、図表 G)と同じである。入会を希望する場合も、そうでない場合も、両者から同様の点が指摘されたことから、明らかに、これらは重要な問題であるといえる。

## 入会に関心があるものの、勧誘を受けていない学友

ロータリー・クラブへの入会に関心を示した学友に、**現在、専門職、事業主、企業幹部あるいは管理職に就いているか**を尋ねた。プログラム別に、「はい」と答えた回答者の割合が下の表に示されている。

表 11

	現在専門職に従事し、入会に関心のある学友の割合
GSE	89%
奨学金	81%
ローターアクト	71%

資格を有する学友がロータリー入会の勧誘を受けているかどうかを探るため、**入会に関心があり、かつ現在専門職に就いている学友が、地元のクラブより入会の勧誘を受けたか**どうかを尋ねた。「はい」と答えた回答者の割合が次の表に示されている。

表 12

	入会に関心があり専門職につく学友で <b>勧誘を受けた</b> 割合
GSE	42%
ローターアクト	33%
奨学金	18%

入会に関心があり、専門職に就いている学友で、**勧誘を受けなかった人**について、**自分の関心を知らせるために地元のクラブに自ら連絡をとったか**どうかを尋ねた。プログラム別に「はい」と答えた回答者の割合が次の表に示されている。

表 13

	入会に関心があり専門職につく学友で <b>クラブに連絡をとった</b> 割合
奨学金	25%
ローターアクト	24%
GSE	17%

関心を知らせるためにクラブに連絡をとった学友に、問い合わせをした際のクラブの反応について尋ねた。**50パーセントは前向きな反応を受け、8パーセントはクラブは関心を示さなかったと答え、17パーセントはクラブから全く応答がなかった**と回答している。クラブから前向きな反応を受けた50パー

セントの回答者のうち、連絡を取ったクラブへの入会には関心がないと説明した人もいる。その要因は以下の通りである。

- 例会時間の都合がつかない
- クラブに献身するための十分な時間がない
- 現会員と自分との年齢がかけ離れている

元ライラリアン、元インターアクター、元青少年交換参加者はこの部分の調査分析から除外されていることにご留意いただきたい。これらのグループへの連絡は地区委員長を通じて行われなければならない、調査回答者の多くはプログラムを終了してから数年しか経っていないため、平均年齢が21歳という結果になった(つまり、一般的に、専門職に従事するほどの年齢に達していない)。

## なぜより多くの学友が入会しないのかについてのロータリアンの意見

ロータリアンは学友とは違った見方を持っていることを考慮し、なぜより多くの学友がロータリーに入会しないのかに関する意見をロータリアンに尋ねた。

ロータリアンから指摘された要因のひとつは、**数多くのクラブがこれらのプログラムに参加していない**、あるいはプログラムの活動を理解していなかったり、その効果を認識していないことである。プログラム参加者との関わりが薄いことが、プログラムや学友への無関心につながっている、との意見である。

ロータリアンから挙げられたその他の要因は、プログラムに参加するクラブの多くが**クラブとプログラム参加者との関係作りを行っていない**ことである。この点について特に指摘が多かった2つのプログラムは、国際親善奨学金とローターアクトである。国際親善奨学金については、クラブは多くの場合、奨学生を選出し、海外へ送り出した後、留学中や帰国後に奨学生との連絡をほとんど行っていない、または全く行っていないと言われている。ローターアクトについては、多くのローターアクト・クラブが提唱クラブと密接な結びつきを持っていないと言われている。こうした状況では、ローターアクターとロータリアンの間に関係を築くのは難しく、よってローターアクターがロータリーへ移行するのがさらに困難となる。

**プログラムを終了した際、ほとんどの学友は、まだロータリーに入会する資格を有していない**と多くのロータリアンが指摘している。中には十代後半の参加者もあり、これから大学へ行って、キャリアを築こうとしている人もいる。より上の年齢層で大学を卒業していたとしても、まだキャリアを確立しておらず、ロータリー入会の資格をまだ満たしていない場合がある。年齢が若く、仕事でも私生活でもまだ発展途上の参加者が多いため、クラブ会員は彼らを将来のロータリアンとみなすことが難しく、学友と連絡を取り続ける努力を行っていない。

連絡の維持を試みる場合も、**クラブはその計画を立てていない**場合が多いとロータリアンは証言している。クラブは、学友について記録管理が十分でなく、整理体制に欠けると言われている。また長期にわたる関係維持の明確な方策を持っておらず、重要な行事に学友を招待することも考慮されていない。全体的に、クラブは、学友をすぐに忘れ去ってしまうと言われている。

地区においても、組織力と計画性の欠如という点でクラブと同様の問題を抱えていると言われている。**多くの地区は情報をまとめ、活動を統合する方法を把握していない**との意見が出ている。学友小委員会委員長がいらない地区も多い(RIの記録では、29パーセントの地区が学友委員長を設けていな

いと報告している)。学友委員長がいる地区においても、委員長はそれほど活発ではないとの声が多い。

地区レベルでの組織をより詳しく調べるため、地区会員増強委員長の年次アンケート調査において、地区会員増強委員長に、地区の学友との連絡状況について質問した。地区会員増強委員長の回答によると、

- 60.5 パーセントの地区が、地区プログラムの参加者のリストあるいはデータベースを保持している。
- 36.6 パーセントの地区が地区のプログラムに参加した学友と定期的に連絡を取っている。
- 62.4 パーセントの地区は、青少年交換のような青少年プログラムの学友に、ローターアクトなどの若者向けのプログラムに参加するよう奨励している。
- 66.3 パーセントの地区は、適格なプログラム学友を入会見込者として検討するよう、クラブに勧めている。
- 43.9 パーセントの地区は、適格なプログラム学友がその地域のロータリー・クラブと連絡を取り合えるよう紹介している。

クラブや地区が学友との連絡を保とうと努力している場合でも、学友は、プログラムを終了した時点からそれぞれのキャリアに落ち着くまで、**何度も引越しをする傾向がある**と多くのロータリアンが言及している。クラブと地区は、**学友の最新情報を管理し、試行錯誤を続けるのが困難な状態**である。

その他に挙げられた懸念は、**十分な数のローターアクト・クラブがないこと**、特に地域社会を基盤としたローターアクト・クラブが少ないことである。ローターアクトは、若い学友がそれぞれのキャリアを確立するまで、ロータリーに参加し続けるための素晴らしい方法である。しかし、多くの地域社会ではローターアクト・クラブがほとんど、または全く存在せず、よって若い学友がプログラムを終了してからロータリーの会員として資格を満たすようになるまでの間をつなぐ方法がないようである。

多くのロータリアンはまた、クラブは単純に、**学友に入会の声をかけていない**と認識している。その他に、年齢が上の学友には、プログラムが終了次第すぐに入会の話を持ちかけているが、学友はその時点で参加する心構えができていないため、入会話を断るとの声も聞かれる。クラブは、学友が一度話を断ると、連絡を取り続けたり、再び勧誘を行いたがらないようである。

ロータリアンはまた、学友と同様の懸念を多く挙げている。年齢に関して、あるロータリアンは、クラブ会員は**学友を同等とみなすよりも、むしろ子供や孫のように思い**、その感覚で学友とコミュニケーションをとっている場合があると指摘している。こうした状況では、学友が同等のメンバーとしてよりも、子供のメンバーとして扱われているように感じ、入会をためらうことになる。

ロータリアンはその他に、**学友はロータリーに入会するための十分な時間やお金がない**と言及している。特にローターアクトに関して、ローターアクトの会員として必要な時間とお金をロータリーの会員の場合と比較すると大きな違いがあると指摘されている。ローターアクトは、これまで捻出してきたよりもさらに多くの時間とお金を突然、提供することができない、または提供しながらない場合がある。

ロータリー・クラブは、青年商工会議所や円卓会議といった、**青少年にさらに焦点を当てた市民クラブに圧倒されている**と感じるロータリアンもいる。通常、学友がプログラムを終えてからロータリー入会の資格を満たすまでに時間がかかることから、その間に学友がロータリーを待つよりも、他の活動や

市民団体に参加してしまう。ロータリーから入会の勧誘を受けるころには、学友は既に他団体に活動しており、忙しい予定の合間を縫ってロータリーのために時間を割くことが難しくなっている。

## 推奨事項

毎年数多くの新しい学友が輩出されることを考えると、これらの学友がより効果的にロータリー・クラブへ移行すれば、ロータリーには大きな成長の可能性が生まれることは明らかである。学友を会員候補としてさらに活用するために、クラブ、地区、国際レベルで導入できる方策が数多くある。以下のアイデアは、調査の回答者やロータリアン、現在のプログラム参加者およびプログラム学友の事例を基にまとめられたものである。

## クラブや地区のための方策

### 現在のプログラム参加者と密接な関係を築く

クラブと地区がプログラム参加者に、ロータリーとの「生涯にわたるつながり」を教え込むことは重要である。参加者のプログラム期間中のロータリーとのつながりが強ければ強いほど、体験がより好ましいものとなり、長期にわたってロータリーとの連絡を維持する可能性が高まる。図表 E(12 ページ)に示されている通り、調査に答えた学友ロータリアンの多くは、現在の会員を既に知っており、彼らとの関係があるからクラブに入会したのだと話している。

クラブや地区はこの「生涯にわたるつながり」を多くの方法で教え込むことができ、その方策には以下のようなものがある。

- 毎月「ロータリー家族」会合を開き、現在および過去のプログラム参加者を招待する。
- クラブ・プロジェクトにプログラム参加者を含める。
- プログラム参加者に、ロータリー、そのプログラム、そして会員になることの恩典について教育する。
- ローターアクト／インターアクト・クラブの会合に定期的に参加するようロータリアンに奨励する。
- 合同プロジェクトや合同行事を運営するため、ロータリー・クラブとローターアクト／インターアクト・クラブとの間に特別な連絡委員会を設ける。
- 会長エレクト研修セミナーでローターアクト・クラブの会長を研修する。
- 地区研修チーム・セミナーに地区ローターアクト代表を含める。
- 地域ローターアクト会議や青少年交換大会など、プログラムに関係する行事に参加する。
- 地区会員増強委員に地域の奨学生オリエンテーション・セミナーに参加してもらう。
- 青少年交換学生の誕生日やローターアクト／インターアクト・クラブの創立日など、特別な記念日を祝う。
- 受入クラブが、受入れた青少年交換学生、国際親善奨学生、および研究グループ交換チームの活動に参加する。
- 派遣クラブが派遣する青少年交換学生、国際親善奨学生、研究グループ交換チームのために入念なオリエンテーション・セッションを実施し、彼らが海外から戻った際には帰国を祝う行事を行う。
- 個人で参加しているプログラム参加者(青少年交換学生や国際親善奨学生など)を同じプログラムの他の参加者に紹介する。年に何度か参加者を集め、お互いを知り、ネットワーク作りができるようにする。

- プログラムを終了した際に参加者と最後の面接を行い、これからどのようにしてロータリーと関わっていきたいかを探る。

## 計画を立てる

プログラム学友を会員候補としてより活用するため、クラブと地区は学友小委員会を任命し、学友関係についての行動計画を作成する必要がある。学友委員長は、財団委員長、会員増強・退会防止委員長、プログラム委員長とともに活動を調整すべきである。学友小委員会は以下のような任務を担うことができる。

- 正確な記録管理
- 学友との連絡維持
- 学友に新しいプログラム参加者を勧誘してもらったり、教育してもらったりなど、ロータリーのさまざまな活動に参加してもらう。
- 連絡の途絶えた学友を探し出し、再び彼らとの関係を築く。

地区学友委員長が枠組みを作り、責務を割り当てる際、「地区ロータリー財団委員会要覧」の中で定められている指針が大変有用なものとなる。学友にロータリーの活動に継続して参加してもらい、彼らをロータリアンへと移行させるための行動計画の作成にあたり、ロータリー財団学友コーディネーター(RFAC)、ロータリー財団地域コーディネーター(RRFC)、国際ロータリー会員組織地域コーディネーター(RRIMC)、国際ロータリー会員組織ゾーン・コーディネーター(RIMZC)も支援の提供者となる。

## 学友を紹介する

学友がいかに素晴らしくとも、ロータリアンが彼らを会員候補とみなさなければ、学友を会員候補として扱うことはない。学友がロータリー家族の一員として認められることは大切なことである。学友の勧誘をクラブや地区の一般慣行とするために、ロータリアンは学友をロータリーにとって欠くことのできない存在として考えなければならない。

ロータリアンが学友の価値を他の人々に知らせる最良の方法は、学友を紹介することである。学友を紹介することによって、ロータリアンは自分が行った寄付の恩恵を知ることができ、また学友の重要性を理解すると思われる。学友を推進するためのアイデアは以下の通りである。

- 地区の名簿に現在のプログラム参加者と学友の両方を含めて記載する。
- クラブや地区のニューズレターで学友を紹介する。
- 特に感動的な学友の話題を地元のメディアに提供する。
- 卓越した学友をポール・ハリス・フェローにする。
- クラブ会合や地区の行事に学友を招待し、スピーチをしてもらう。

## 学友に入会を勧める

学友の勧誘にあたって鍵となる方策は、当然のことながら、彼らが入会の資格を満たしたらすぐに、入会を勧めることである。多くの学友はクラブから連絡が来るのを待っており、クラブは学友が連絡してくるのを待っているように見受けられる。しかし、ロータリーへの入会は会員の推薦がなくてはならないことから、クラブが率先して行動を起こすべきである。

元ローターアクターや元研究グループ交換チームメンバーなど、年齢層が上の学友については、体験が記憶に新しく、連絡がまだ密に取られている間、つまりプログラムが終了次第できるだけ早くにクラブが入会を勧めることが重要である。比較的早い時期に入会の話がないと、学友は他に打ち込める活動を見つけてしまうことになる。

学友に入会を勧める際、クラブは学友が入会を希望する典型的な理由に焦点を当てるべきである。その理由は、社会奉仕活動、新しい人との出会い、他の人が自分と同様に素晴らしい体験ができるよう手助けすることなど、図表 A (9 ページ) に示されている。クラブは、学友にとって最も魅力があると思われるロータリーの具体的な恩典を学友に指摘すべきである。例えば、元インターアクターや元ローターアクターに対しては奉仕プロジェクトを強調したり、元青少年交換学生や元研究グループ交換メンバーにはロータリーの国際性を強調することができる。

学友が入会を断った場合も、クラブは引き続き彼らと連絡を取り続け、クラブと関わってもらうその他の方法を探るべきである。時間が経った後も、クラブは根強く、入会を勧めるべきである。学友は、生活状況が変わるにつれ、考えを変える可能性があるからである。

## ニーズに合うクラブ探しにおいて学友を支援する

学友が入会を断った場合も、クラブは気を落とすことなく、むしろ彼らのニーズによりふさわしいクラブ探しを支援すべきである。学友は、自分と同じような人々の集まるクラブに入会を希望しているかもしれない。別の時間や場所に合うクラブを必要としているかもしれない。あるいは、他の会合の形態や異なるプロジェクトをもつクラブを探しているかもしれない。学友がそれぞれのニーズに合うクラブを見つければ、忙しすぎる、などの入会を希望しないその他の理由などすぐに立ち消えるものだと多くのロータリアンが話している。

学友にとってより魅力的なクラブ作りを行うため、クラブの伝統や構造を一部変更したクラブもある。学友が入会して1年目の会費の一部を免除するクラブもあれば、青年商工会議所やラウンド・テーブルといった市民クラブに対抗して、より多くの専門的能力開発の機会を設けるクラブもある。食事をなくし、時間を短くした上、議題に焦点を置いた例会にすることで、多くの若い会員から効率を評価されているクラブもある。図表 E (12 ページ) に見られる通り、学友はおおむね、大変活動的で、若い会員を擁し、親しみやすく、活気に溢れ、便利な会合時間と場所を設けるクラブに最も関心を持つものである。

## 新クラブを結成する

学友のニーズに合うクラブをなかなか探し出せない場合、クラブや地区は新しいクラブを結成することができる。すべて学友からなる新クラブは既に世界中で結成されており、フィリピン、ドイツ、日本、

イタリア、米国などで始められている。新クラブを結成する際、学友はクラブを自分たちの希望通りに作ることができる。関わりを持つのが難しいクラブに入会するよりも、自分たちでコントロールすることのできるクラブに入会するほうが、より積極的な参加を期待できる。地区は、新クラブの創立会員を募る際、すべてのプログラムの学友に声をかけるべきである。

## 連絡を維持する

プログラムの終了時にすべての学友が入会の資格を満たしているわけではないことは明らかである。しかし、入会の資格がないという理由だけで、若い学友との連絡が絶やされるべきではない。表 10 (19 ページ)に見られるとおり、プログラムを終えてからロータリーとの連絡が少ない学友ほど、ロータリー入会への関心が薄い。よって、クラブや地区は長期にわたって連絡を取り続け、学友がロータリー入会への意欲や関心を維持できるようにすることが重要である。連絡を維持するためのアイデアには以下のようなものがある。

- 学友に、クラブや地区のニュースレターおよび地域雑誌を送り、ロータリーの活動について知らせる。
- 学友に、誕生日、卒業、その他の特別な機会にお祝いの言葉を送り、自分がロータリーにとって重要な存在であるということを意識してもらう。
- 定期的にアンケートを送り、学友の近況を探る。
- 学友にクラブや地区の活動に参加してもらう。

学友は頻繁に引越しをする傾向があるため、クラブや地区が最新の連絡先を把握するのは困難である。学生の表やデータベースを作成することで、クラブや地区は記録管理を一元化し、管理しやすくなることができる。古い記録をまとめるために表やデータベースを利用したり、過去の記録がない場合は、現時点からの記録を効率よく保存するために使うことができる。「定住所」として学友の両親や保護者の住所欄を設けるのが役立った、という地区もある。

学友同士の連絡を維持することも、連絡の維持に含まれる。クラブや地区は、定期的に地域に住む学友を対象とした同窓会やその他の活動を企画することができる。クラブや地区が学友の行事を促進すれば、学友同士で連絡を取りやすくなり、クラブや地区が 1 人と連絡を取れば、ネットワーク全体に連絡できる状態ができる。こうした学友の集まりのもう 1 つの利点として、学友が新しいロータリー・クラブの結成を呼びかける場合もある。

## 学友に他のプログラムに参加してもらう

若い学友の中には、ロータリー・クラブ入会の資格を満たすまで何年もかかる場合がある。クラブや地区は、学友がロータリーに入会できるようになるまで、ロータリーの他のプログラムに参加してもらい、学友の関心を長く持続させることができる。例えば、元青少年交換学生がインターアクトやローターアクト・クラブに参加したり、元インターアクターが RYLA へ、また元ローターアクトが研究グループ交換に参加することもできる。

ローターアクトは、優れたプログラムであり、他のプログラムとロータリーを長期的につなぐ環境となるため、クラブや地区は多くのローターアクト・クラブを維持することが重要である。新しくローターアクト・クラブを結成する際は、元インターアクター、元青少年交換学生、および元ライラリアンを活用する

ことができる。ローターアクトのような若い成人のためのプログラムに参加することで、参加したプログラムの終了後からロータリー会員の資格を満たすまでの間の橋渡しができる。

## **学友にクラブや地区の活動に参加してもらう**

学友との連絡を維持する最良の方法は、クラブや地区の活動に参加してもらうことである。19 ページの結果の部分で報告されている通り、ロータリー・クラブにまだ入会できない学友の多くが、ロータリーの活動への参加に関心を示している。クラブや地区が学友の参加を得るための方法には以下のようなものがある。

- 学友をプログラム候補者の選考委員会やオリエンテーション委員会に含める。
- ロータリーにおけるさまざまなスピーチの機会に学生を招く。
- 学友に、さまざまなクラブの例会に出席するよう奨励する。
- 学友に奉仕プロジェクトに参加してもらう。
- 各地区大会で学友の行事を必ず催すようにする。
- 学友が関心を持つような活動を紹介する。
- 地区学友会を発足する。

## 成長の可能性

RIと財団の記録では、ロータリーは2004-05年度だけで、さまざまなプログラムから100,000名を超える学友を輩出している。学友がロータリアン候補としてさらに認識されるようになれば、ロータリーには大きな成長の可能性がある。

### 高校生以下の学友

2004-05年度:

- 約48,000名のインターアクターがインターアクトを卒業
- 約7,000名の学生が青少年交換を終了
- 約9,600名の18歳以下の青少年がRYLAプログラムを終了

合計、約**64,000名**の**高校生が学友**となる。

これらの学友はロータリー入会の資格をすぐに満たせるわけではないが、その多くがプログラムで素晴らしい経験をしており、ロータリーに大きな関心を抱いている。彼らはロータリー家族の一員であり、ロータリーのあらゆる活動に大きな関わりを持ってきた。クラブや地区が、こうした若い学友を将来の地域社会のリーダーであると考えれば、彼らを将来のロータリーのリーダーとしてみることができるようになり、よって学友と関係を維持することへの関心が増し、最終的に学友が資格を満たすようになったとき、彼らを会員候補として勧誘するに至るであろう。

表8(16ページ)に見られるように、プログラムを終了してから15～19年経った学友の**48パーセント**、およびプログラム終了から20年以上たった学友の**30パーセント**が**ロータリー入会に関心を示している**。クラブがこうした学友を会員候補者として上手く活用し、そのうちの30パーセントが最終的に入会した場合、ロータリーの使命を支える**19,000名を超える新しいロータリアン**が生まれることになる。

### 大学生の学友

2004-05年度:

- 約15,500名のローターアクターが大学を基盤としたローターアクト・クラブを卒業
- 約1,000名の学生が国際親善奨学金を終了
- 約6,600名の18～24歳の青少年がRYLAプログラムを終了

合計、約**23,100名**の**大学生が学友**となる。

これらの学友はロータリー入会の資格をまだ満たしていないが、その多くがプログラムで素晴らしい経験をしており、ロータリーに大きな関心を抱いている。彼らもロータリー家族の一員であり、ロータリーのあらゆる活動に大きな関わりを持ってきた。クラブおよび地区は、将来のロータリー指導者としての可能性を認識し、彼らがキャリアを確立するまで連絡を取り続け、入会の資格を満たし次第、会員候補者として勧誘を行うべきである。

表8(16ページ)に見られるように、プログラムを終了してから7～9年たった学友の**62パーセント**、およびプログラム終了から10～14年たった学友の**58パーセント**が**ロータリー入会に関心を示して**

いる。クラブがこうした学友を会員候補者として上手く活用し、そのうちの 58 パーセントが最終的に入会した場合、ロータリーの使命を支援する **13,000 名を超える新しいロータリアン**が生まれることになる。

## 若い成人の学友

2004-05 年度:

- 約 19,000 名のローターアクトが、最高年齢に達したために、地域社会を基盤としたローターアクト・クラブを終了。
- 約 2,100 名の若い専門職従事者が研究グループ交換を完了。
- 約 3,800 名の 25 歳以上の青少年が RYLA プログラムを終了。

合計、約 **24,900 名の若い成人が学友**となる。

こうした学友の多くが既にロータリー会員となる資格を満たしている。まだ資格を満たしていない人の多くも、間もなく資格を満たせるようになる。彼らもロータリー家族の一員であり、ロータリーのあらゆる活動に大きな関わりを持ってきており、ロータリーに大きな関心を抱いている。クラブおよび地区は、年齢層が上で資格を満たす学友がロータリー・クラブへと移行するのを直ちに支援すべきであり、ロータリー入会の準備ができていない学友とも連絡を維持すべきである。

表 8(16 ページ)に見られるように、プログラムを終了してから 1~3 年たった学友の **72 パーセント**、およびプログラム終了から 4~6 年たった学友の **68 パーセント**が**ロータリー入会に関心を示している**。クラブがこうした学友を会員候補者として上手く活用し、そのうちの 68 パーセントが最終的に入会した場合、ロータリーの使命を支援する **17,000 名を超える新しいロータリアン**が生まれることになる。

## 全体的な可能性

RIとロータリー財団のプログラムの学友は、リーダーシップ、奉仕、国際理解に貢献できる質の高い人々である。彼らは会員候補者としての可能性を秘めた大きな人材の宝庫である。上記の仮定的な予測は、わずか **1 年分の学友から長期にわたって合計約 49,000 名もの新しいロータリアンを生み出す**としている。クラブと地区が学友の情報管理と連絡を向上させることができれば、学友の関心を高め、会員候補者を増やし続けることができるだろう。

ロータリー・クラブと地区が学友をより効果的にロータリアンへと移行させることができれば、これらの新会員が RIとロータリー財団のプログラムを支援するより多くの人材と資金を生み出すことになる。つまり、より多くの若者がプログラムに参加できることになり、そこからさらなる学友が輩出され、将来のロータリアンとなる大きな人材の源が作られることになる。学友を会員候補としてよりよく活用することは、国際ロータリーとロータリー財団にとってその成長を支えるらせん形をつくり出すことなのである。